

市民と行政の「架け橋」目指して



毎月1日と15日にご家庭に配布している広報。その「広報にかほ」が今号で150号を迎えました。これは、読者である市民の皆さん、情報を提供してくださる方、毎号各家庭に配布していただく方などのご理解とご協力なくしては成り立たないことは言うまでもないことです。しかしそんな「広報にかほ」が皆さんにとって「おもしろくない」ものであるなら、ただの経費の無駄遣いにすぎません。これから先、ながく市民に愛読され続けるために、何が必要で、どう変わるべきか：

まちの明るい話題や、市民の笑顔や輝きにもスポットをあて、より身近で興味を持てる紙面を目指し、カメラ片手に毎日のように取材に出ています。その「広報にかほ」が市民にどう思われているのか。または本当に読まれているのか。そんな疑問を抱き、アンケートを実施しました。

アンケートで見えてきたことは、市民の皆さんがよりオープンな行政を望んでいること。そして身近な市役所であってほしいということ。そして「広報にかほ」が市民と行政の『架け橋』の役目を担ってもらいたいという市民の思いです。

もちろんそれは、これまでの149号にわたり追い求めてきたものです。広報紙は公的な総合情報紙として重要なものです。市民に読んでもらうため、そしてわかりやすくするために、1ページ1ページ試行錯誤しながら作成しています。単に行政情報報が羅列する紙面にならぬよう、

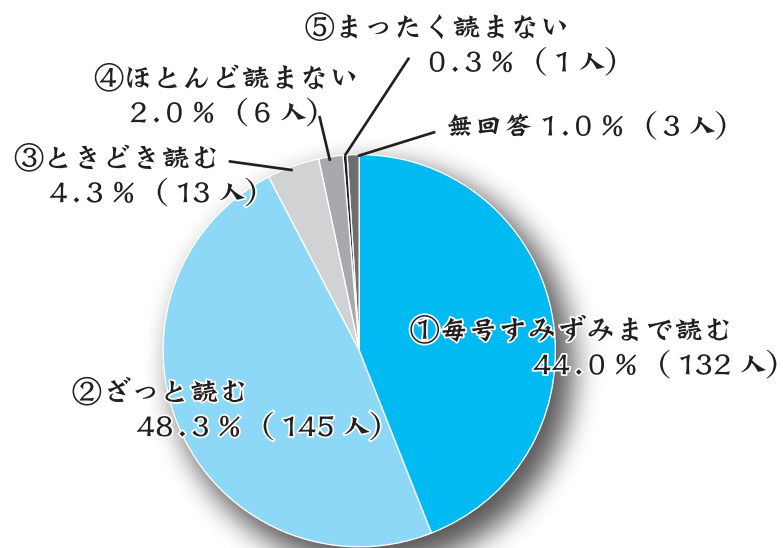
今回のアンケート結果を我々は「通信簿」ととらえました。市民の皆さんからの通信簿を、真摯に受け止め、この先「広報にかほ」が市民と行政の『架け橋』となれるよう改めて考えていきます。

狙いと結果

10月28、29日の両日、市民文化祭の会場となった3公民館で、6項目のアンケートを実施しました。文化祭会場での実施は、老若男女を問わず、3地域を万遍なく網羅することを狙ったものです。更に窓口アンケートは郵送料を節約するとともに、直接お願いし、直接回収することにより市民の皆さんの生の声と、率直な意見を聞き、そのことを3人の広報担当が肌で感じとればという思いがありました。

結果、300人の皆さんから300通りのあたたかい「通信簿」を頂きました。ここではその内容と「通信簿」によって明らかとなった広報にかほの現状と課題をご紹介します。

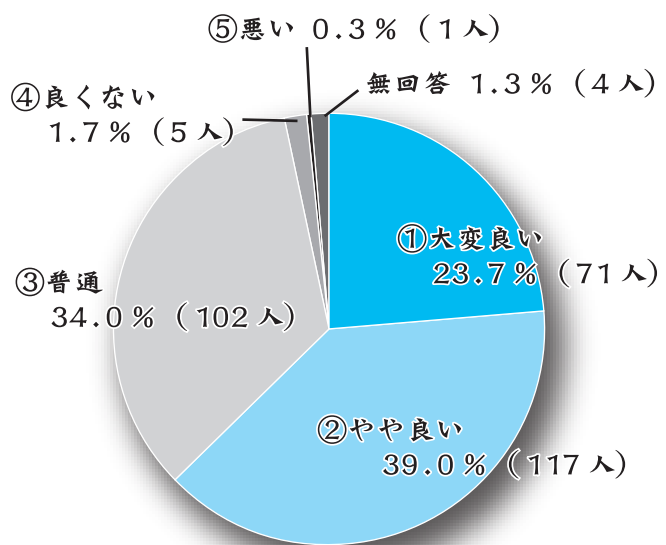
1 あなたは「広報にかほ」をどの位読みますか？（5択）



この結果には正直驚きました。実に80%以上の方が広報を読まれている事がわかったからです。反面、広報紙の重要度が高いと言いう事でもあるため、より重圧を感じる結果となりました。

- ①毎号すみずみまで読む
- ②ざっと読む
- ③ときどき読む
- ④ほとんど読まない
- ⑤まったく読まない

2 あなたの「広報にかほ」の評価は？（5択）



ずばり評価を聞かれ、記入に戸惑う方も多かったように感じましたが、おおむね良い評価を頂いたものと、安堵の気持ちです。しかしながら、普通くやや良いが80%近い状況は、悪い評価ではないにしろ、なんらかの不満を持たれている事は確かです。ここでの質問は「広報にかほ」の総評価に値する部分なので「何が良いのか」または「何が悪いのか」を見極める必要があります。皆さんからは「こんなものでしょ？」とか「比較するものがないから」という意見も聞かれました。逆に、転動されてきた方や、市外に勤務されている方からは「前に住んでいた自治体と比較して良い」や「勤務先の自治体の広報が断然いい」といった意見も聞く事ができました。他の自治体の広報を参考にすることも必要と考えます。

- ①大変良い
- ②やや良い
- ③普通
- ④良くない
- ⑤悪い